

報 告

種子島の保育所・幼稚園における予防接種状況

第2報 — 予防接種に対する意識調査 —

根路銘安仁¹⁾²⁾, 今中 啓之²⁾, 藤山 りか¹⁾²⁾
 児玉 祐一¹⁾²⁾, 武井 修治³⁾, 河野 嘉文²⁾

〔論文要旨〕

前報によれば保育所における予防接種率は幼稚園のものより低かった。集団生活する保育所・幼稚園の予防接種の徹底は感染症防止対策上最も重要な課題であるため予防接種に対する意識調査を行った。予防接種の情報源は自治体からの広報・通知が9割以上であり、受けていない理由に関しては病気で接種期間をのがしたり、保育所の保護者では平日の時間がとれないことが多かった。解決には行政と協力し予防接種に関する正しい知識、予防接種の意義および副反応に関して啓発普及に努めることが必要であり、受けやすい環境づくりとして通年化や休日接種など接種体制を整えていく必要がある。

Key words : 予防接種率, 保育所, 幼稚園, 意識調査

I. 目 的

今日、就学前の児のほとんどは幼稚園・保育所等の集団生活下にあり、これらの集団に対する予防接種の徹底は感染症防止対策上最も重要な課題である。種子島においても前報によれば3歳以上で68.7%が保育所か幼稚園で集団生活をおくっており、1歳以降に接種する予防接種の保育所における接種率は幼稚園より低かった。そこで、幼稚園と保育所保護者の予防接種に対する意識調査を行い、予防接種率が低い問題点を明らかにする。

II. 方 法

種子島の0歳児から5歳児までの保育所と幼稚園に通うすべての保護者を対象とした。前報

と同じ保育所13施設、幼稚園8施設に同時に平成15年5月に調査票を送付、保護者に記載してもらい回収した。なお、個人が特定できる項目は設問に設定せずに、施設を通じて回収した。調査項目は、予防接種に対する情報の入手先、予防接種を受けた理由、感想、これまで予防接種を受けていない理由、予防接種を受ける際の不都合点等である。また、アンケート項目ごとに保育所と幼稚園の間に差があるか、カイ2乗検定により統計学的検討を行った。

III. 結 果

1. 対象者

前報同様送付対象者は1,160名で、有効回答数は895名(保育所486名, 幼稚園409名)、有効回答率は77.2%であった。

The Knowledge, Attitude, and Practice Study about Vaccination among Parents
 at Nursery Schools and Kindergartens in Tanegashima Island
 Yasuhito NEROME, Hiroyuki IMANAKA, Rika FUJIYAMA, Yuichi KODAMA,
 Syuji TAKEI, Yoshifumi KAWANO

[1831]

受付 06. 5. 26

採用 06. 9. 6

1) 田上病院小児科(医師) 2) 鹿児島大学大学院小児発達機能病態学分野(医師)

3) 鹿児島大学医学部保健学科(医師)

別刷請求先: 根路銘安仁 鹿児島大学大学院小児発達機能病態学分野

〒890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8-35-1

Tel: 099-275-5354 Fax: 099-265-7196

2. 予防接種に関する情報 (図1)

予防接種の情報入手先は、自治体からの広報・通知が保育所95.1%、幼稚園96.3%と最も多かった。母子健康手帳が幼稚園31.8%、保育所22.4%で次に多く、育児雑誌や家族や知人、病院等で説明されたのはそれぞれ1割前後であった。また、「母子健康手帳をみて」(p<0.01)、「病院等で説明された」(p<0.001)では、有意に幼稚園の保護者が高かった。

3. これまでの予防接種を受けた理由 (図2)

「予防接種をしておくべきだ」が保育所で90.1%、幼稚園で90.2%であった。次に多かったのは、「保健センターで勧められたから」が保育所で8.2%、幼稚園で10.3%であった。その他の項目については数%と高くなかった。幼稚園と保育所の保護者間での違いはなかった。

4. これまでの予防接種に対する感想 (図3)

「受けてよかった」が保育所で76.1%、幼稚園で79.7%と最も高かった。しかし「分からな

い」と答えたものが、保育所で19.1%、幼稚園で14.7%であった。幼稚園と保育所の保護者間での違いはなかった。「受けさせない方がよかった」とした人が幼稚園で1名いたが、理由としては副反応がでたからであった。

5. 予防接種を受けていない理由 (図4)

「風邪や発熱のためにできなかった」が、保育所36.0%、幼稚園20.5%と最も高かったが、保育所が有意に高かった(p<0.001)。次に、「受けさせるつもりはあるのだが単純にまだ受けていないだけである」が保育所24.1%、幼稚園19.3%であった。3番目は「もうすでに雇ったため」が幼稚園7.6%、保育所3.5%で幼稚園が有意に高かった(p<0.01)。「雇うべきで予防接種を受ける必要性はない」と思っているものも、保育所で1.4%、幼稚園で2.2%とあった。その他の項目は1%以下であった。

6. 予防接種を受けるうえでの問題点 (図5)

「期間が決まっている」が両者とも最も高く、

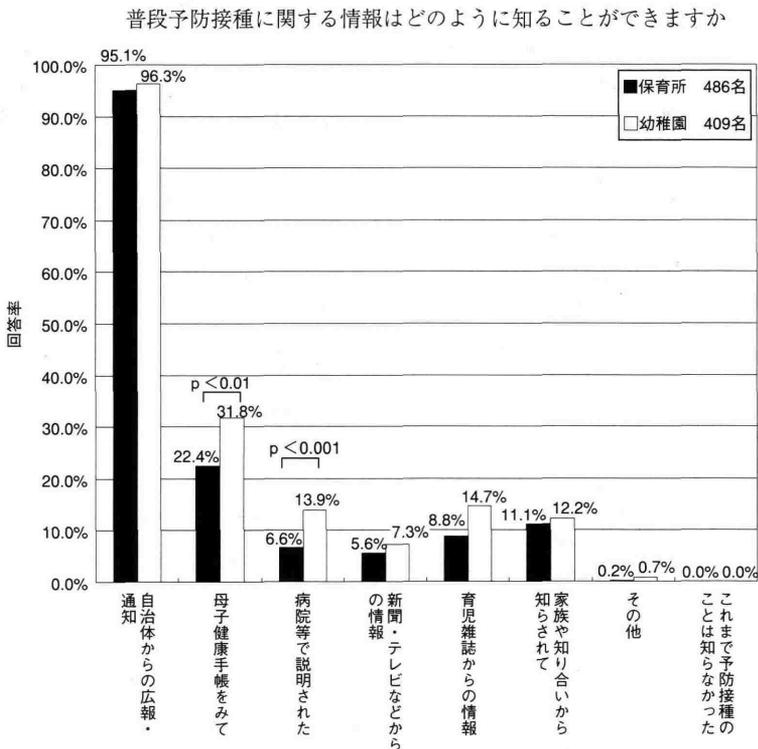


図1 予防接種に関する情報

これまで、予防接種を受けた理由を教えてください

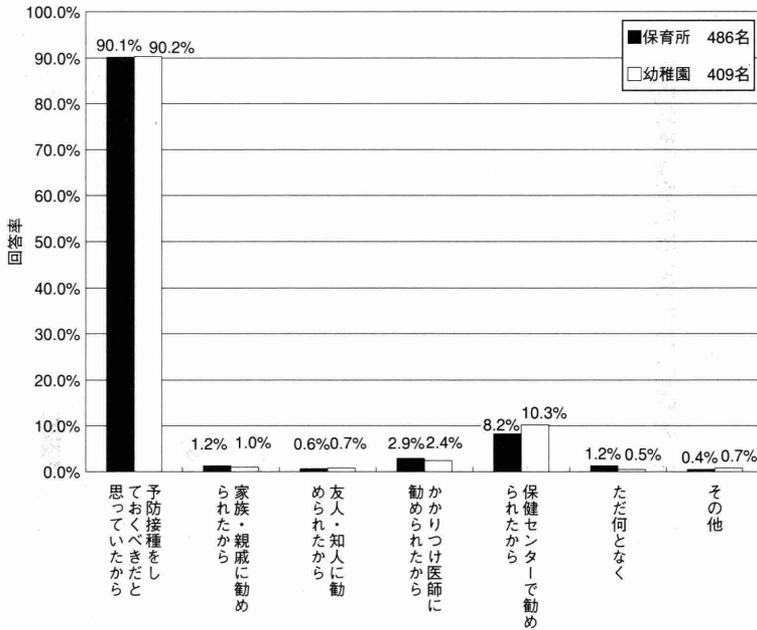


図2 これまでの予防接種を受けた理由

保育所で36.8%，幼稚園で37.7%であった。「平日の時間がとれない」が保育所で25.5%，幼稚園で12.2%と保育所が有意に高かった ($p < 0.001$)。また「接種するところが遠い」は1%前後と少なかったが、その他で予防接種の有料化を記載していた保護者が保育園で2.3%，幼稚園で1.2%を占めていた。

IV. 考 案

集団生活は、病気を互いにつししやすい環境であり、ひとたび感染が持ち込まれば大流行が起りやすい。そのため感受性を減らすために予防接種の徹底は重要な感染症対策である。前報で1歳以降に接種する予防接種の保育所における接種率は幼稚園のものよりも低い結果となっていた。そこで接種率を上げるうえでの問題点を明らかにするため調査を行った。

予防接種の情報の入手先であるが自治体からの広報・通知が最も多く、保育所・幼稚園ともに95%を超えていた。過去の報告においても、自治体からの広報・通知が最も多く^{1)~7)}、他の項目に関してはほぼ同じであった。しかし、病院関係者からの情報に関してはこれまでの報告

これまで予防接種を受けてどう思われますか

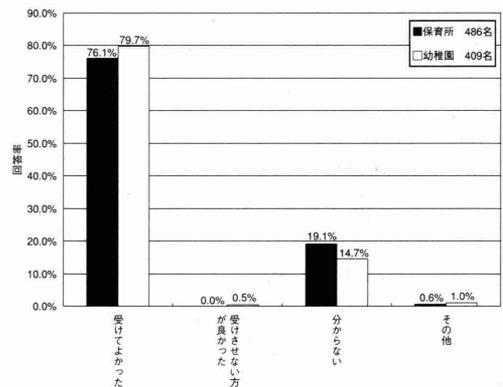


図3 これまでの予防接種に対する感想

では3～6割であったのに対し低い傾向が認められた。このように自治体からの広報・通知が最も大事な情報源であり、各自治体と小児科医は予防接種を促す通知や広報の作成を工夫する必要がある。また、病院関係者からの情報提供が、当地区では低かったため一般受診時に予防接種歴の把握と指導をするさらなる努力が求められる。

次に、予防接種を受けた理由に関しては、「受

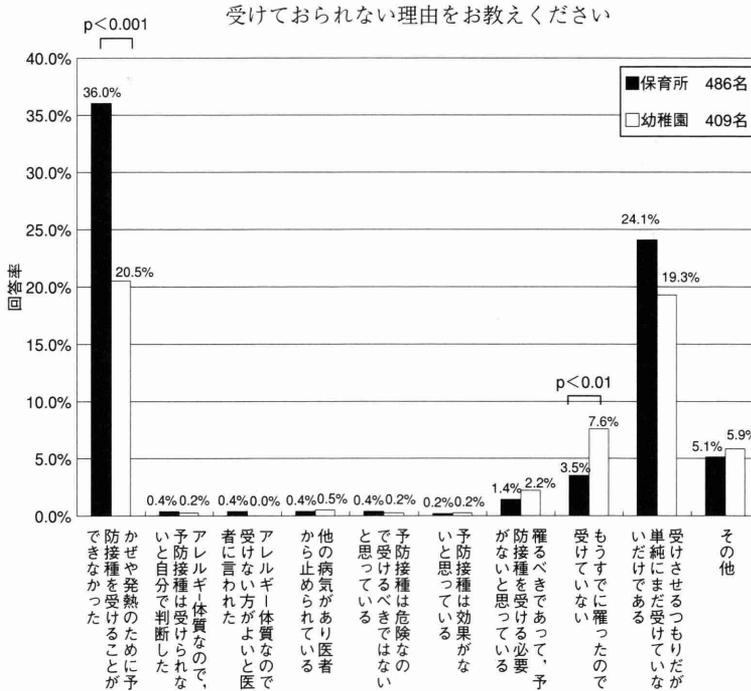


図4 予防接種を受けていない理由

けるべきだと思ったから」が9割を超え、次に「保健センターで勧められたから」が約1割であった。具志川市の麻疹に対する調査では、「麻疹は怖いので罹る前に受けさせようと思った」が84.9%、「新聞で流行を知って」が25.5%、「予防接種の通知が来たので」が25.0%、「かかりつけの医師に勧められて」が25.0%であった²⁾。他の地方と同様に、麻疹予防接種は受けさせるべきと考えている保護者が大多数であった。また、種子島での麻疹予防接種後の感想は保育園、幼稚園ともに「受けさせてよかった」が保育園76.1%、幼稚園79.7%で最も多かったが、「分からない」と答えた者が保育園で19.1%、幼稚園で14.7%であった。1名副作用のため受けさせない方がよかったとの回答があったが、否定的な意見はかなり少なかった。しかし、予防接種を受けた理由として「受けさせるべき」と9割以上の保護者が答えていたのに、受けさせて良かったかどうかに関しては「分からない」が約2割存在していた。このことは、保護者が受けるべき理由について理解することができておらず、十分な情報提供がなされていない可能性

受けさせることで、不都合なことはなんですか

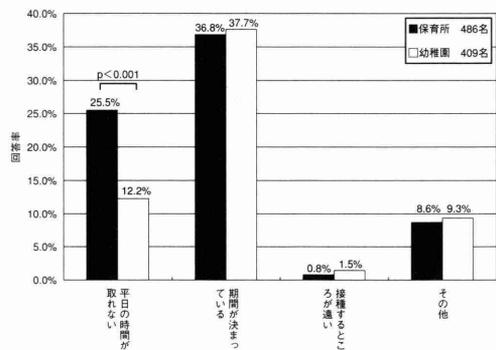


図5 予防接種を受けるうえでの問題点

がある。そこで予防接種を受ける理由について、保護者がどのように理解しているか調査することが今後の課題として残る。

また、これまでに受けていない予防接種に関しては、「病気のために受けることができなかった」が最も多く、「単純に忘れていた」、「すでに罹ったので」の順となっていた。忍足らは、「うっかり」が最も高く、その他に「病気がち」が幼稚園に比べ保育園で割合が高いとしてい

る⁷⁾。今回の調査で過去の報告と違い「うっかり」よりも「病気がち」が多かったのは、予防接種体制が種子島ではすべて接種期間が数日と短いため、その期間に病気で受けられない確率が高いためであろう。また、保育所で「病気のため」が幼稚園に比べ有意に高かったのは、保育所児の場合は長時間集団生活をするために感染のリスクが大きく、また保護者が就業している割合が高く休みを取りにくい状況があるため、長期間の欠席が困難で風邪気味でも通所させることがあるのではないかと考えられた。

予防接種を受けにくい理由として、「接種期間が決まっている」が最も多かった。これに関しては、種子島地区すべてで接種期間が数日と短いことを反映している。前報で述べたように、予防接種の通年化など接種しやすい環境づくりが必要である。また、平日の時間がとれないことに関しては、保育所が25.5%、幼稚園で12.2%と有意差を認めた。具志川市の麻疹に対する調査でも、保育所通園児の保護者から、「予防接種に行く」理由では仕事が休みにくい等の実情が聞かれ、これから予防接種について社会全体に啓発を行うこと、予防接種休暇の設置などの必要性を強く感じたと報告している²⁾。また、保育所通園児の接種希望日として、土曜、日曜の希望が多かった⁵⁾。しかし、医療者側での調査からは、予防接種率低下をくい止める方策として、「休日接種は実行したほうがよい」が35.2%に対し、「実行が難しい・実行には反対」が49.2%と否定的な意見が多かった⁸⁾。しかし、幼稚園に比べ保育所での接種率の低下が著しい現状を改善するためには休日接種は必要と考えられる。

V. 結 語

感染症対策として就学前児童の予防接種率を上げるためには、保育所の接種率が重要である。

そのためには行政と協力し予防接種に関する正しい知識、予防接種の意義および副反応に関して啓発普及に努めることが必要であり、受けやすい環境づくりとして通年化や休日接種など接種体制を整えていく必要がある。

参 考 文 献

- 1) 安井良則, 砂川富正, 藤岡雅司, 他. 大阪における麻疹および麻疹予防接種調査結果と麻疹対策—堺市における保護者を対象とした麻疹および麻疹ワクチンに関するKAP studyと麻疹対策を中心に— 小児感染免疫 2003; 15(1): 95-102.
- 2) 濱比嘉由美子, 真鳥ゆきの, 上原真理子, 他. 具志川市における麻疹対策について—麻疹“0”定期予防接種率95%を目指して— 沖縄の小児保健 2003; 30(3): 57-63.
- 3) 毛利元郎, 浅利 有, 天野 曄. 予防接種法改正による保護者の意識調査 東京小児科医会報 1997; 15(4): 41-49.
- 4) 細谷京子, 真下茂美. 予防接種法改正にともなう保護者の意識調査 小児保健研究 2001; 60(1): 51-56.
- 5) 廣瀬幸美, 三浦正義. 乳幼児における主なウイルス感染症の抗体保有状況と母親の感染予防意識 小児保健研究 2004; 63(4): 401-407.
- 6) 田内佳子, 千屋誠造, 永安聖二, 他. はしかの予防接種がうけやすい環境づくりを目指して—保護者の主体的な接種行動への試み— 高知衛研報 2002; 48: 33-41.
- 7) 忍足美代子, 田辺正紀, 有益 修, 他. 接種歴からみた学齢前期の予防接種—保育所(園)と幼稚園との比較— 保育と保健 2003; 9(2): 38-43.
- 8) 八森 啓, 古平金次郎, 白井泰生, 他. 東京小児科医会報 1999; 17(3): 47-53.